

4 点検・評価及び進行管理を通じた教育委員会へのアドバイス

＜藤井佳世 委員長＞

今年度で3年目になりました。昨年までの内容を踏まえながら、地区ごとの特色やそれぞれの状況に配慮した多様性の視点から質問をいたしました。点検・評価では、各委員からの様々な質問に対して詳細な説明がなされることによって、報告書からは読み取りにくい一つの事業の意義や射程が明確になると感じています。

どの事業も、とても意味のある取組だと思いました。一つ一つは、異なる事業内容であり、目的も異なるのですが、広く市民の生活の充実に関わる点では共通しているように思います。とてもたくさんの方に取り組んでいる背景には大きな目標やその背景にある考えがあると思いますので、年次ごとの取組計画における数値の達成とともに、それぞれの事業の背景にある考え方や事業どうしのつながりについてもう少しお話いただくと、取組の方向やその上での課題を知ることができるように思います。

市民一人ひとりが充実した生活を送ることができるように、さらに多様に配慮した事業の取組を期待すると同時に、充実した学びの展開が広がることを願っています。

＜渡邊美子 副委員長＞

今年度で点検評価にかかわらせていただくのは2回目となります。改めて藤沢市で取り組まれている多くの事業を見直し、1年目と違う目線になるものもありました。

その一つが連携についてです。昨年は一つ一つの事業を見ることに精一杯でしたが、今年はそれぞれの事業が周りの事業とどのように関わりあっているのかがとても気になりました。質問させていただいた特別支援教育推進事業についてもそれぞれの立場で支援を必要とする児童生徒の立場に立って支えていることがよくわかりました。

中学校英語科教員派遣事業もそうですが、今までの組織体制の垣根を越えて、最終的な目標のために連携しながら事業を推し進めることに今後も積極的に取り組んでいきたいと思いました。そして、必要ならば外部の専門機関を活用するなりして、時には合理的に効果の上がる方法を模索しながら事業を展開してくださると良いのではないかと思います。

二点目は生涯学習の分野における周知に関することです。今までのような広報などによる受動的に情報を得る方法ではなく、求める人が自ら求めるものだけを深く知りたがる時代になってきたような気がします。このような変化を考えながら、市民が求める事業展開と発信方法を工夫していただけたらと思います。

そのうえで、市民が受け身でなく主体的に参加していけるような場、発信し合い情報を共有し合えるような場の提供が、活力ある藤沢市を育むことになると思います。

私なりの意見を述べさせていただきましたが、それぞれの事業は予算や時間など限られた制約のある中でしっかりと工夫しながら進められていると思いますので、今後も藤沢市民のために頑張ってくださいと思います。

そして最後に、このような機会をいただいたことに感謝申し上げます。

<渡邊 泰典 委員>

今年度はじめて点検評価に関わることとなりました。藤沢市に位置する大学の一員として、重要な仕事を引き受けた責任を感じているところです。その一方で、この仕事を引き受けたことによって、点検評価の実際を観察する貴重な機会が与えられたとも言え、大学でも自己点検や認証評価と言った PDCA サイクルを意識した取組が導入されてきていることから、私自身の勉強となることも色々とありました。以下、今回の点検評価活動の中で気づいたことを挙げたいと思います。

第一に気になったことは、学校現場で児童生徒と向き合う教員の負担の増加です。学業、生活の両面で以前よりも細かいサポートが必要とされる一方で、教員数の増加は業務の増加に見合っているとは思えません。加えて、協働や連携の推進は関係者間の協議の増加をもたらすことから、これも現場の教員の時間を圧迫することが予想されます。小中学校だけではなく大学でも協働の推進が非常にうたわれています。それによって会議が増えてしまうということがおこっています。もちろん、協働や連携の推進それ自体は好ましいことですが、適切な人員配置や、情報共有のための手段の検討などによって、一人一人の負担が過重なものにならないよう目配りすることを願っています。

次に、こちらはやや些末なこととなりますが、報告書に記載されている情報について、年次毎の目標値に対する成果が、評価対象年度（H29 年度）のものだけしか書かれていないことが気になりました。これは特にあらかじめ数値目標が記載されている場合に関わるものですが、年次ごとの取組計画と予算・決算については経年で記載されているものの、実績については当該年度のものしか情報がないため、目標値の設定が妥当かどうか判断に迷うケースがいくつかありました。例えば、実績が目標値を下回った場合に、当該年度のみ未達なのか、過去から継続しているのかでは、課題・問題点での取り上げ方も変わってくると考えられるため、過去の実績値を報告書に含めることについても検討をお願いしたいと思います。

大学の認証評価や自己点検では、点検活動それ自体は教育や研究に関わるような生産的なものではないため、関わる教職員のモチベーションはどうしても上がりにくいということがあります。行政の点検評価活動でも、同じようなことがあるのではないかと想像していますが、実際に点検活動行うことによって、自分たちでも見落としていたことを見つける機会となることもありますので、毎年続けていくことが何よりも大切なのだらうと思います。今後も藤沢市や藤沢市の教育のために、点検評価活動も改善しつつ継続していくことを期待しています。

<伴 瑞穂 委員>

点検・評価作業を通じて、子どもたちのために様々な取組がなされていることを改

めて知りました。自分自身が子育てをする中で、気がつかなかった事業も多くありました。ぜひ、素晴らしい事業のさらなる周知方法を検討し、より多くの子どもたちのために還元できるようお願いいたします。親として市民として PTA としてご協力できることがあれば喜んでさせていただきたいという気持ちがある人もたくさんいると思いますし、私自身も協力させていただきたいと強く思いました。家族形態が多様化し、家庭環境も様々である中、教育活動に取り組む教育委員会並びに関係各課の日々のご尽力と様々な事業展開、企画力に感謝をします。

子どもたちにとっても、親にとっても当たり前としての義務教育という場、時間はとても重要だと感じています。子どもたちが安心して毎日が送れるよう、当たり前の居場所という存在となるよう、また、無条件に受け入れてくれる場であるように願っています。子どもたちはなかなか SOS を発信する場所が見つけにくい環境にいます。学校というのは大人に SOS をいつでも出せる唯一の場でもあり、人間形成を行う大切な場所です。どうぞ、異変がある場合には見逃さず関係機関と連携し、健やかな成長をオール藤沢という体制で見守っていただけるようお願いいたします。

また、子どもたちの可能性、経験を多く積むことのできる学校教育の現場が掲げている施策の柱に向かっていけるよう、みんなで支えていける体制づくりを強く望みます。毎日、現場の先生方はとても負担が大きく業務量が多いということは報道等でもわかっていることではありますが、親として先生方のお仕事に大変敬意をもっております。現場の先生方の負担を軽減することで、より良い教育の場となること、教育の質の向上と、心の充実、子どもたちに寄り添い、向き合える時間の確保がなされることを期待しております。